

支払管理システムの概要

支払業務は、経理業務のなかで毎月定時的に発生する事務作業のなかでも期日が決められており、

- ①取引先からの納品書・請求書との内容確認
- ②支払金額の計算確定、支払方法や期日の決定
- ③それらに基づく支払手続き作業
- ④具体的には現金・総合振込み・支払手形発行など比較的件数のまとまった大量
- ⑤データの煩雑な事務作業
- ⑥支払方法別の資金手当
- ⑦支払結果の振替仕訳データの起票と会計システムへのデータ入力

など、相互にに関連する一連の業務で構成されています。

「支払管理システム」は、このような支払業務についてそれぞれと連動が取れるシステムとして構築され、支払事務作業全般を見通したシステムとして利用できるようになっています。

このようにICST超財務システムに連動するサブシステムとして利用する方法と、単独のシステムとして直接支払データをキーボード入力して利用する方法の2通りでご利用頂けます。

- ① 超財務システム連動利用の場合：超財務システムで入力した仕訳データの中より、支払管理対象科目を含んだ仕訳データが支払管理システム側に連動抽出します。この時、仕訳データの対象科目に取引先を表す枝番が付いていることが前提です。
- ② データ入力の場合：支払管理システム内で直接支払データをキーボード入力します。支払管理システム側で、①あるいは②の方法で入力されたデータを、支払条件マスターにより、個々の取引先ごとに支払金額・支払日を計算して各種支払明細表を作成します。

いずれの方法でも、この支払管理システムから手形発行システム・総合振込ファームバンキングシステムへと連動処理でき、支払業務全般にわたって効率的に迅速で正確な処理が行えます。